

令和4年度 浜竹保育園事業報告

1. 概要

①運営報告

- 年明けよりコロナウイルス感染が広がり大田区への報告や保護者への通知などに追われる日々でした。感染予防対策として健康教育や保育環境を見直しや生活仕方も変えるなど試行錯誤で保育を進めました。また、行事や交流の中止、縮小など保育活動にも大きく影響しました。
- オンライン研修に対応できるよう全館通信可能な環境にしましたが、端末機器の納品に時間がかかり保育システム（コドモン）との契約がかなり遅くなりました。それ以降も通信状態が悪く調整に時間がかかりました。
保育事務の一元化に向けた準備として他園の情報や園長会での現状等を踏まえて職員で意見交換を重ね検討しましたが、課題が多くもう少し大田区の動向を見ながら進めることにしました。
- 第三者評価受審結果の組織の課題となっていた「保育環境や職員間の細やかな情報共有と地域への発信の在り方」についてリーダー会やパートで話し合いました。地域交流についての活動は出来ませんでした。子育て情報を掲示板やパンフレットにて伝えましたが、方法や内容などもう少し工夫が必要と反省しています。
- 大田区が指定する応急保育所として位置づけられていながら大田区からの具体的な指示がありませんでした。しかし、令和4年度より本格運用が開始されるということで、6月頃より浜竹保育園の応援園（大田区直営園）と打ち合わせを行い、マニュアルをより現状に合わせる作業をしました。その上でマニュアルに沿って浜竹保育園において受付設営やトイレ設営・保育室の設定の仕方など、具体的な環境の整え方を代表者間で模擬実施し共有することが出来ました。

②定員 140名（大田区との協定によります。）
年度末在籍 137名（3名欠員：3歳児1名・5歳児2名）

③事業日数 314日（12月29日～1月3日までは大田区の規定により休園します。）

④開園時間 月曜日～土曜日 7時15分から20時15分
休日保育 8時30分から17時30分
令和3年度実績 7月・8月・9月実施
実施日数18日 利用児童数 延べ82人

⑤保育時間（月曜日～土曜日）
早朝保育 7時15分から 8時30分
通常保育 8時30分から18時15分
延長保育 18時15分から20時15分

- ⑥職員数 園長1名、主任1名、副主任1名、
 保育士26名（要支援児個別対応2名含む）（途中で産休・育休に3名入る）
 看護師1名、栄養士2名（うち1名育児休業取得）
 調理員4名（保育補助員内部異動）
 非常勤保育士1名：延長保育専任2名
 パート（早朝保育補助員）2名、
 嘱託医（大田区の指定による）内科医1名、歯科医1名

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、学び合う子ども社会の中で、成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 十分に養護の行き届いた環境の下、子ども達が主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え自己を十分発揮し人として『生きる力』をはぐくむ。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。
- 保育所職員の専門性を活用し、在園児及び地域の子育て支援を行う。

③保育目標

「共に遊び 共に育ち合い 学びに向かう子」

1. 友達と一緒に遊び、楽しみながら様々な体験を重ねる中で、考えたり工夫したり、協力したりしながら主体的に行動する力を身につける子ども
2. 互いの思いや考えを共有したり、自分と異なる考えに気付いたりしながら学びに向き合い、互いに育ち合える子

④クラス（在籍数）編成及び職員配置

0歳児	かめ組	17名	保育士6名（産明け分1名含）
1歳児	かに組	21名	保育士5名（他、非常勤1名）
2歳児	ぺんぎん組	24名	保育士4名（要支援児付1名含）
3歳児	いるか組	25名	保育士2名（他、非常勤1名）
4歳児	とびうお組	26名	保育士3名（要支援児付1名含）
5歳児	くじら組	24名	保育士2名
		(3月末在籍数	137名) (保育士 22名)
主任保育士			1名
副主任保育士（フリー代行）			1名

非常勤保育士	2名（非常勤保育士 有資格）
早朝保育補助	2名（パートタイマー）
延長保育補助	1名（パートタイマー）

⑤保育内容

- 課題として取り組んできた保育室の環境作りについては、パートごとに玩具提供の見直しと作って遊べる制作に力を入れました。子ども達の反応に職員も意欲的に取り組めたようです。子ども達にとっても個々の作品で遊ぶことは、より遊びが盛り上がり楽しめたようです。
- 感染症予防と健康増進のため、看護師による年齢に合わせた健康教育を昨年度より継続しました。2歳児以上は手洗い・うがいを繰り返し指導するなかで習慣化しています。
また、新たな取り組みとして3年度は「自分の体を知る」をテーマに「ウンチの話・血の話・骨や筋肉の話など」を看護師の視点から保育に取り込みました。カードや健康かるたをオリジナルで作成し年齢に合わせて楽しみながら話を進めることにより関心を示していたようです。印象に残った言葉をその子なりに保護者に伝えていましたが、その都度トピックスとして写真を掲示し親子で閲覧、関心を持ってくれたようです。
- 子どもの生活リズム（夜型）の乱れや体力の低下・運動能力の低下から転びやすく怪我につながるが多くなっています。朝の柔軟運動と基本的な運動を継続しています。まだ十分とは言えない状況です。
- コロナ禍の中での「オリンピック・パラリンピック」開催ということもあり、家庭での盛り上がりもあまりなかったようです。子ども達の関心も薄かったと感じています。保育の中でもう少し積極的にオリンピック題材の活動を取り込むべきだったと反省しています。国旗制作を通して図鑑を調べる中で世界の国の言葉や文化の違いに関心を持つ姿が見られました。
- 個別保育を必要とする要支援児への思いやりや子ども同士の関わりが、一緒に生活する中で一人の人間として認め自然にできるようになってきました。また、聞こえの悪い保護者や園児も複数名いることもあり4歳・5歳クラスでは手話ソングを年間活動に取り入れてきました。保護者にも披露し感動の声が多く聞こえました。
近隣の老人施設との交流は中止となっていますが、写真やお便りを届け喜ばれました。

⑥家庭との連携

- 子どもの体力低下についてお便りや保護者会でお伝えし、併せて「体力・筋力を高める運動遊び・戸外遊び近隣散歩」など園での活動や家庭で出来る親子の触れ合い遊びや散歩の勧めなども紹介しました。
- 保護者会について、時間短縮や延期などで保護者間での子育てに関わる情報交換の時間が取れませんでした。そこで代替え案としてクラス毎に「自由書き込みコーナー」を設け文書で情報交換が出来るようにしました。初めは保育者が質問を投げかけましたが、その後は積極的に保護者間での情報交換が出来たクラスもありました。「睡眠状況・食事について・遊び場・家での遊び・お稽古事・兄弟げんか等」いろいろな情報が書かれていました。

また、「子育てについてアンケートを取り、お便りで保護者の意見を返す」というクラスもありました。

- 保育園の日々の活動がより身近に感じ取ってもらえるよう、また保育や親子の会話や子育てに関心を広げてもらえるよう食育活動や保育活動の様子を各年齢で写真トピックスとして、クラス閲覧ファイルに差し込み、保護者がいつでも閲覧や見返しができるようにしました。

⑦人材育成

- 定期的に行っていたグループ学習会はコロナ禍のため中止し、これまでも課題としてきた「保育における人的環境」について『参考文献』から抜粋し個々で考えていくと自己学習を行いました。各年齢で「保育士の手作り玩具や子どもが作って遊べる制作」取り組みました。他クラスの刺激もありお互いに評価しながら取り組めたようです。
- 新規採用者（新卒者）4人に対ししチューター制度を導入、担当クラスの一番近い経験者を相談役としてお互いに刺激し合いながらスムーズな業務遂行を図りました。チューター職員やリーダーの関わり方（丁寧さ）で職務慣れや効率に差が出ていると感じています。
- 栄養士と調理員メンバーが入れ替わり夏ころまで毎日時間に追われているようでしたが、ベテランの調理員が上手く立ち回り誤食なく提供することが出来ました。しかし、初めのころは、材料の発注ミスや食器の破損などのミスが続きました。午後のおやつ出しの後、日々の些細なミスをヒヤリハットや業務内容を日々の振り返りと確認をし、記録することで徐々にミスが減りました。子育て支援への関わりはコロナ禍のため次年度に持ちこしです。
- システム化についてこの1年は技術的なことを学びながら準備期間としてしました、令和4年2月にコドモンと契約を行い、とりかかりとして職員の打刻を始めました。（試行）また、今後の導入についても事務効率につながるのか見極めが必要ということで、他園から情報収集を行っているところです。
- 「支援の必要な家庭や保護者などの対応」について継続的に行っている園内研修は、2回実施しました。例年グループで事例検討を行ってききましたが、3年度事例に対し個人で対応を考え文書で研修前に講師送付しました。それを受けて講義形式で勉強しました。それぞれの考えに対するコメントを頂きながら職員間で対応について共有し、実践に取り込んでいます。
- 「人権や差別など」について「オリンピック・パラリンピック」、「コロナ感染」等を題材に各年齢で人権教育として保育に取り入れました。

⑧地域の実態に対応した事業

地域子育て支援事業

- 令和3年度もコロナ禍で始まりましたが、感染者が徐々に減り地域交流なども計画し始めたところで、大田区からの指導は解除となりませんでした。9月からは施設見学のみ実施可能となりましたが人数制限と短時間のご案内となりました。（施設見学者：39家庭）
予約の連絡を頂いても枠を超えお断りするケースも多くありましたが、パンフレットを配布し質問を受けるなど玄関先での対応で了承して頂きました。
- 地域子育て支援事業は電話相談のみとなり8件受けました。近隣老人施設との交流事業も中止

としましたが、子ども達のメッセージを届け喜ばれました。

- 新たにスタートした「子ども地域会議」は1月にオンラインで行いました。
- ホームページへの掲載につきましても行事の計画が大きく変わり、日々の保育実践を掲載する予定でしたが、写真が個人に特定されるものに偏ったため掲載回数が少なくなりました。園の保育室環境は掲載しましたが、もう少し利用者目線の工夫が必要でした。

幼保小中との連携事業

- 近隣の保育園や小中学校との交流はコロナ感染拡大のため、昨年度に引き続き大田区より中止の通知があり実施に至りませんでした。感染者数が減ってきた年明け1月に小学校と交流実施に向け連絡し合いましたが、結果予定していた時期に感染者が増えキャンセルとなりました。

⑨ 苦情処理

- 「苦情処理システムがよくわからなかった」というご意見が多くありましたので、入園説明時とお便りでもお知らせしました。
- 保護者から苦情として同クラスの園児とその親御さんについて介入したい旨の申し入れがありましたが、「人権」に関わる案件でしたので、人として、保育園としての考え方を説明させて頂きました。
- 近隣から「送迎時の保護者のマナーについて」電話でご注意いただきました。すぐに掲示をすると共に全保護者にメール配信で周知しました。

⑩ リスクマネジメント

- 災害時の応急保育について他園での訓練体験に参加しました。その後、浜竹保育園の担当園長と何度か打ち合わせをしたうえで、浜竹保育園においての準備や災害時後の応急保育の環境設定を行いました。
- 他園との「起震車体験や煙体験」は令和3年度もコロナ禍のため見送りとなりました。
- 救急救命や応急手当について看護師による講習を2回概ね全職員が参加し行いました。

⑪ その他

- ・全館通信可能になるよう WI-FI 設置工事を行いましたが、電波がスムーズに飛ばずシステム導入が計画より遅れました。端末機としてタブレットの納品目途が立たないという事でノートパソコンを3台とタブレット1台新規購入しました(1月から2月)。初期設定や職員の理解等に時間を要しました。
- ・昨年度より空調の調子が悪く夏冬と冷暖房が使えない状況が続いていました。特に今冬は幼児クラスと厨房の暖房が使えず、オイルヒーターを大田区よりお借りし暖を取りました。修理不能となり急遽3月に入って室外機を新規の物と入れ替えました。